カーネーションの摘心方法の違いが出荷時期に及ぼす影響

～白色品種は冬季の出荷量増加が収益向上のポイント～

地宗紀良（東三河農林水産事務所田原農業改良普及課）

【平成２８年１２月１５日掲載】

【要約】

カーネーションの白色品種は、葬儀に使われるため年間を通して需要があるが、特に需要が高まる12月から３月にかけて平均価格が高くなる。しかし、現在の摘心方法では１月から３月にかけて収穫本数が減少するため、摘心方法を変えて収穫日と収穫本数を調査した。二次摘心の本数を慣行の２本から３本に増やしたところ、3.3㎡当たりの総収穫本数は慣行区より約36本少なかったが、１月から３月の3.3㎡当たり収穫本数は約71本増加した。また、愛知県産白色カーネーションの月別平均価格をもとに3.3㎡当たりの販売金額を算出したところ、慣行区より約820円多くなった。

１　はじめに

愛知県のカーネーション栽培では、定植後に２回摘心して10月から５月まで採花する方法が一般的である。採花期間中、赤色品種の平均価格が高い時期は、12月、３月及び５月であるが、それ以外の時期は需要量が一定ではないため価格変動が激しい。一方、白色品種は葬儀に使われるため年間通して需要があり、特に葬儀需要が高まる12月から３月にかけて平均価格が高くなる（図１）。しかし、現在の摘心方法（図２）では１月から３月の収穫本数が減少し、白色品種の平均価格が下がる５月に収穫本数が急激に増加してしまう。

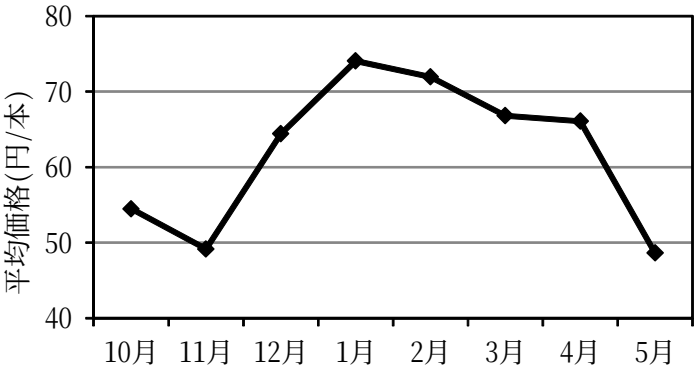

図１　東京都中央卸売市場における国産白色カーネーションの平均価格の推移
（東京都中央卸売市場市場統計情報から引用）

白色品種の生産において、１月から３月の収穫本数を増やすことができれば、販売金額が増加し、経営はより安定する。そこで、１月から３月の収穫

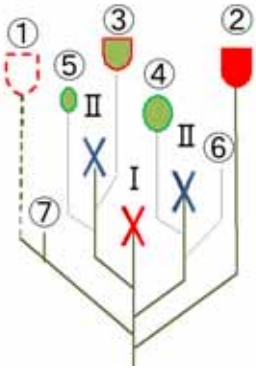

図２　一般的な仕立て方法模式図

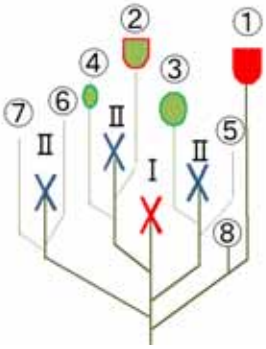

図３　３本摘心区の仕立て方法模式図

本数を増加できる新たな摘心方法として、二次摘心の本数を１本増やす方法（３本摘心区、図３）を検討した。

２　調査概要

（１）栽培概要

平成27年６月20日に白色品種「ムーンライト」を70株/3.3㎡の栽植密度で定植し、一次摘心を７月13日に行った。二次摘心は、８月25日から９月20日の間に、一次側枝の伸長に応じて適宜行った。摘心本数以外の栽培管理は調査農家の慣行とした。

（２）調査方法

発生した分枝全てに一次側枝、二次側枝を区別した荷札をつけ、収穫時に荷札を回収して側枝別の収穫日と収穫本数調査を行った。

（３）試験区

区名	摘心方法
３本摘心区	一次摘心により発生した一次側枝を４～５本に仕立て、二次摘心で一次側枝を３本摘心
慣行区	一次摘心により発生した一次側枝を４～５本に仕立て、二次摘心で一次側枝を２本摘心

（４）調査期間

平成27年10月１日～平成28年５月９日

３　結果

月別の収穫本数の推移は図４のとおりである（側枝別収穫日のデータは略）。３本摘心区の3.3㎡当たりの総収穫本数は約392本であり、慣行区より約36本少なかったが、１月から３月の収穫本数は約71本多かった。秀品率は同程度であった。

また、東京都中央卸売市場における愛知県産白色カーネーションの月別平均価格をもとに3.3㎡当たりの販売金額を算出した結果、３本摘心区は慣行区より約820円多かった（図５）。

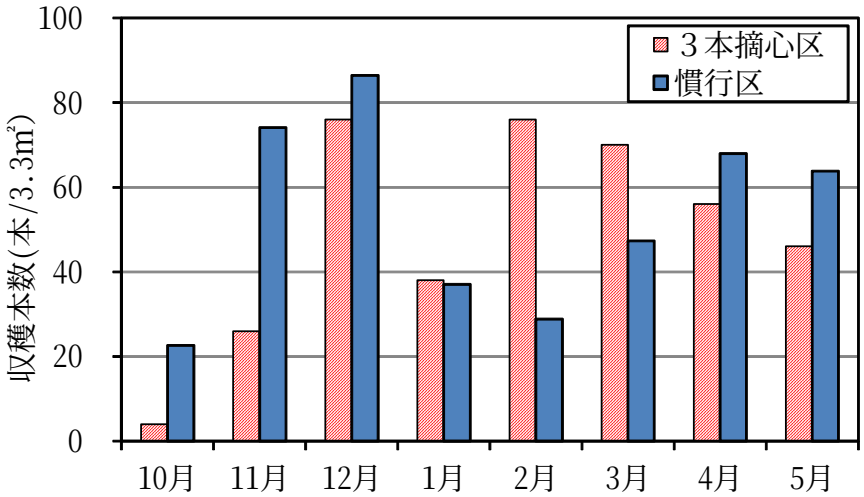

図４　月別収穫本数の推移と総収穫本数

４　まとめ

３本摘心区では、二次摘心で慣行区よりも１本多く一次側枝を摘心したことで、10月から11月の収穫本数は慣行区よりも減少したが、平均価格の高い２月から３月の収穫本数は多くなった。このため3.3㎡当たりの総収穫本数は約36本少なかったが、販売金額は約820円増加した。

しかし、今回の試験では１月の収穫本数は慣行区とほとんど差がなかった。この一因は一次側枝を同時期に３本摘心したことで芽の発生が多くなり、一時的に過密になって慣行区に比べ光環境が悪化したためと考えられる。今後、栽植方法の変更等により１月の収穫本数も増加させる方法を実証する必要がある。また、年度による気象の違いで生育状況が大きく変わるため、一次側枝の３本摘心法を安定的な技術として確立できるよう今後も調査を継続していく。

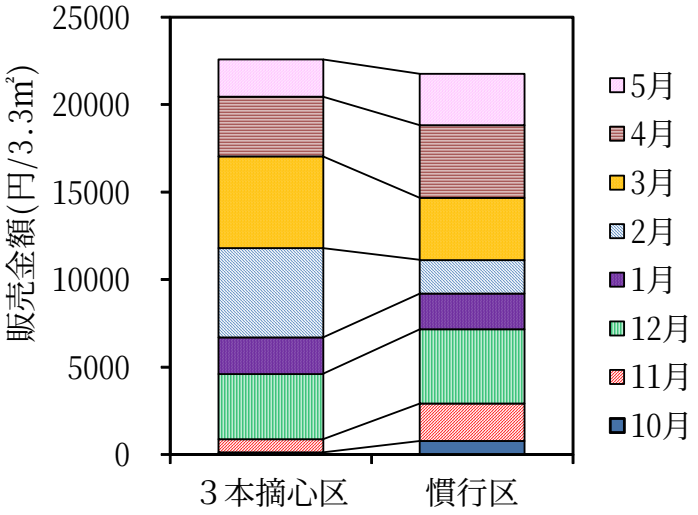

図５　月別販売金額
（東京都中央卸売市場における愛知県産白色カーネーションの月別平均価格を基に算出）

Copyright (C) 2016, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.